

別記様式

		担当課	総合政策課
会 議 の 名 称	令和6年度第2回鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会		
開 催 日	令和7年2月17日（月）		
開 催 時 間	午後1時30分～午後3時15分		
開 催 場 所	鴻巣市役所本庁舎4階 大会議室		
議長(委員長・会長)氏 名	なし		
出席者(委員)氏名 (出席者数)	佐藤 百合子 河野 廣 直井 利充 橋本 浩 鈴木 将浩 永井 孝 田中 景祐（代理） 伊藤 恵 堀口 剛 坂田 直人 計10名		
欠席者(委員)氏名 (欠席者数)	山本 明伸 岡崎 雅行 小林 美鈴 計3名		
事務局職員職氏名	市長政策室長 藤崎 秀也 市長政策室副室長 小川 裕子 総合政策課長 富田 真久 総合政策課主幹 新井 哲弘 総合政策課主任 大島 悠志		
傍聴の可否 (傍聴者数)	可（0名）		
会 議 の 内 容	1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介（自己紹介） 4 議題 (1) 国の地方創生への支援策について デジタル田園都市国家構想交付金に係る事業報告 (2) 「第2期鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略改定(案)」に対するパブリックコメント結果について (3) 次期鴻巣市総合振興計画の策定について 5 その他 6 閉会 【次第4 議事】 (1)国の地方創生への支援策について、デジタル田園都市国家構想交付金に係る事業の報告をし、委員から質問・意見をいただいた。 【コウノトリ野生復帰センター】 ・安心安全な農産物を取り扱う新規事業者数をKPIに設定しているが、取り扱わなくなった事業者数も今後の施策を検討する上で把握する必要がある。 ・施設の今後の改善に向け、市内の小中学校の社会見学の受入れ後に、学校と連携し、子どもたちがどのような感想を持ったかを把握した方がいい。 ・減農薬・無農薬に取り組む栽培面積について、手間のかからない栽培方法にシフトしないよう、また、ブランド米として売れるよう、やめてしまった面積や増加した要因などしっかりとデータ収集を行う必要がある。 ・減農薬・無農薬のお米など、都内には価格が高くても購入する方がいる。一方で、現在の高い気温の中、除草剤を使用しないと雑草の成長が早く、周りの農家からの苦情につながりかねない状況であり、兼ね合いが難しい。		

【にぎわい交流館】

- ・ 昨年も指摘をしたが、免許センターへは市民だけではなく、埼玉県全体から多くの方が通る状況にあるにもかかわらず、外観から何をやっているか伝わらないといったことが改善されていない。KPIの売上金額は2年目で目標の86%、3年目では目標の73%にまで下がっており、目標に対する実績がこの程度だと通常は商売を続けられない。
- 令和7年4月から指定管理者が変わることとなっているが、カフェ売り上げが上がるよう、メニューをリニューアルし、価格帯を下げたメニューも提供したいと伺っている。また、SNS等を活用して情報発信を強化するとともに、免許センター利用者へのPRも積極的に行っていくと伺っている。
- ・ 調理室を利用する際に、エレベーターを使って食材を運ぶと会議室を通らないと調理室まで行けないため、工夫できないかという意見をいただいた。
- 今の指定管理者と次の指定管理者に伝え、可能な限り対応したい。

(2)総合戦略に基づく取組と目標値について、事務局から説明し、委員から質問・意見をいただいた。

- ・ 市民の皆さんが市に関心がないということではないが、パブリックコメントを提出することは敷居が高いため、手法について工夫が必要と感じている。
- 市HP上でパブリックコメントを集約したページに掲載するほか、市広報、LINE、X等で発信している。同様の時期に募集したこども関係の計画では意見が寄せられており、市全体に関わる計画には意見が少ない傾向がある。
- ・ 今回の計画の改定は、期間延長と一部目標値の見直しといった限定的でわかりにくい内容のため、市民にはアプローチしづらかったと感じている。一方で、意見が出なかったというのは、策定側の手応えもないため、集会やイベント、また、コミュニティ放送さんに依頼し、噛み砕いた説明をするのも一つの手法だと考える。イベントとタイアップする際には、ポイントを絞って、絵を入れたパネルを作成するなど理解へのハードルを下げるようなアプローチで、今後の新たな総合振興計画等の策定に取り組まれるといい。

(3)次期鴻巣市総合振興計画の策定について、事務局から説明し、委員から質問・意見をいただいた。

- ・ 県内で発生した下水道管の老朽化による事故が話題となる中、市民の生活を守る公共インフラの老朽化対策について盛り込むと市民の安心につながる。
- ・ 中央小学校のICT教育を見学し、今の教育を受けた子どもたちの将来に希望を持てた。市として人口増加を目指す中、このようなICT教育の普及というのが、鴻巣の目玉の1つとして、計画に盛り込まれるといいのではないか。
- ・ ICT教育については、現場では、教員向けの研修がなく先生が追いつかないといった状況もあるが、発言しにくい子どもでも、パソコンで打ち込めば、モニターに映すことができたり、これまで紙で書いたものを先生がまとめて配布するといった手間もなく意見を集約できるため、効率的であると感じている。一方で、先進的なスウェーデンでは脱デジタル化が進んでおり、デジタルとアナログのバランスが重要と感じている。
- ・ ICT教育は、先生たちも限られた時間の中で、自分たちのブラッシュアップをしていく必要があり、教える側にもやさしい取組が望まれる。
- ・ 鴻巣市は経営耕地面積も広く、今後道の駅の整備を控える中、食料の安全保障と言っては大げさだが、食に関する重要性をしっかりと謳った方がいい。

	・今後のスケジュールについて、6月に事業者を選定して7月に支援業務の契約ということで、支援事業者はどのような業者でどのような役割を担うか。 →業者は、コンサルティング会社を想定しており、計画の体系の検討をはじめ、アンケート・ワークショップの実施を想定している。 ・事業の目的に対して目標値が適切か疑問に思うことがあり、目的のための指標として考え直す必要がある。もし把握していないものがあればアンケートを取り直すなど、現行の計画の焼き直しにならないようお願いしたい。 ・現在の総合振興計画は前市長の時に策定されたものであり、将来都市像についても現在の市長がどのように考えるか計画の中で示すことも重要である。 ・様々な会議において感じることは、夢は語るが、実際の現場では「人がいない」という状況をどのように捉えるか、そこから逃げた方針になっていること。例えば交通のインフラを整備するときにも運転手が不足していたり、人がいなくなる時代を迎えている中で、どのようにこの街を発展させていくかという目線があると市民ニーズにも応えることができる。例えば、保育所をつくりましょうとか、こども誰でも通園制度の開始とか、新たな取組には保育士や人手が必要で、開始した結果、人がいなくて動けないといったことがないよう、一歩先を見据えた政策や目線を見せていくといいのではないかな。 ・鴻巣市は就職をきっかけに転出してしまうケースが多いが、鴻巣市には地場産業でたくさんいいものがあるため、就職をきっかけに転入する流れをつくるのが大切で、金融機関としても積極的に支援していきたい。 ・現在、労働力の確保ということが非常に重要な問題であり、国も働き方改革を推し進めているが特効薬になりえていない状況において、人手不足にどのように対応していくかをみんなで考えていく必要がある。就職する高校生が減少している一方で、求人は大きく増え、いまだかつてない4倍を超える求人倍率で、県内の企業では高校生が採用できない状況となっている。 ・介護施設においても、外国の方を多く受け入れている状況で、群馬県の太田市まではいかないにしても、外国の方の増加への対応も必要になってくる。 ・中小企業は、今給料が高すぎて払えない状況で、払えなければ生き残れないという非常に厳しい局面を迎えており、商工会の会員数も毎月10単位で減少している。結局、薬剤師でも給料が高い都内に流出してしまい、このような課題を解決できないと負のスパイラルから抜け出すことができない。 ・笠原や常光など小学校が閉校し、地域の方からは、こどもに地元に戻ってこいというのが言いづらくなっているという声を聞く。 →学校施設の利活用についても課題と感じており、学校の役目を終えても地域の活動拠点として利用できるよう市としても検討していく。 ・懇話会の委員について、各団体の代表が来ているのが現状ではあると思うが、女性の割合が増えるよう調整した方がいい。
配布資料	・次第 ・令和6年度 第2回鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会出席者 ・令和6年度 第2回鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会座席表 ・令和6年度 第2回まち・ひと・しごと創生総合戦略懇話会レジュメ ・第2期鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略 改定案 ・第6次鴻巣市総合振興計画後期基本計画 概要版